

文大生の 故郷と都留



「都留市ってどこ？」私の大学生活の第一歩は、地図帳で都留市を探すことから始まりました。

福岡で受験したため、都留市はおろか山梨県すらピンとこなかった私に、この大学に来ることを決意させたのは、東京の隣にある県だから都会だろうという期待感でした。しかし、私のその期待は中央線で大月に着き、富士急行線に乗り換えたあたりから音をたてて崩れ始め、谷村町駅に着いたころには完全に崩壊してしまいました。あまりのショックに涙が止まらず、母とホテルで泣いたことを覚えています。

今ではそんなことが懐かしく思えるくらい、都留での生活を楽し

んでいます。私の下宿先の大家さんは地域の情報を教えてくださったり、隣のお好み焼き屋のおばあちゃんには、時々夕飯のおかずを分けてくださったり、お弁当屋のおじさんはよくポテトをおまけしてくださったり、私の周りにはあつたかい人達がたくさんいらつしゃいます。大学の友達と話すことも、もちろん楽しいですが、市民の方々とふれあいは、まだまだ生活の知恵が乏しい私にとつていろいろ勉強になります。

それなのに、学生と地域の人々との交流が少ないような気がします。サークルなどを通じての交流はあるようですが、まだ学生は学生同士、市民は市民同士といった

気風が感じられます。とてももつたいないことだと思えます。

例えば大学の桂川祭ですが、市民の方々にももつと参加していただければ、もつと楽しい桂川祭になると思います。学校側も、市民の方々にも楽しんでいただけるような展示物を発表するとか、スポーツ大会に市民グループも参加できるようにするなどすれば、交流も深まるし、模擬店の売上もあがるし、一石二鳥だと思います。

私の故郷の佐賀県相知(オウチ)町には、「相知くんち」というお祭りがあります。どこにでもある、秋の収穫を神様に感謝するお祭りの一つで、知名度は低いものの私は「相知くんち」は最高のお祭りだと思います。理由はみんなが参加できるお祭りだからです。地域によつては、祭りのメインである曳山(ヒキヤマ)は伝統で男の人しか曳けないとか、地元の人しか曳けないという規制がある所もありま

「地域と大学」

英文学科3年 峯久美子



す。しかし、私達の「相知くんち」は、女の人でも、町外の方でも、一つの曳山を曳く仲間として参加できるのです。実際私も高校二年生まで、大勢の友達とわいわい騒ぎながら曳山を曳いていました。町外の友達を連れてきて一緒に曳山を曳くこともありました。何軒もの家でごちそうになり、騒ぎすぎて「くんち」が終わるころには、いつも声がかれていました。今でも「くんち」の太鼓と笛の音を聞く心がワクワクします。私はそんな、みんなを受け入れてくれる「くんち」の雰囲気が好きです。

都留で四年間学生時代を過ごすという事は、私達の第二の故郷になることだと思えます。大学のことしか思い出せない第二の故郷にならないためにも、市民と学生との交流がもつと必要だと思えます。大きなイベントだけでなく、市が主催する行事、講座にも積極的に参加しているいろいろな経



「相知くんち」の見事な曳山

験をするかと思えます。

実際、私達学生は「つる」という広報誌をあまり目にする事がありません。私もこの原稿を書くことになって初めて読んだのですが、都留市の行政のことや行事について私達が知らなかったような事も書かれており、都留市に住んでいるながらいかに地域に接していなかったかということを感じました。

これからは、各個人が情報のアンテナを立てたり、情報をもつと目につく所に掲示するなど、相方の歩み寄りが必要になってくると思います。